

(参考様式5)

### 事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
上士幌町	1633	1	平成20年～平成22年度	平成20年～平成22年度
活性化の区域				
北海道上士幌町 上士幌地区				

#### 1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する農用地の集団化率	40%	32.65%	81.63%	

(コメント)

集団化率については、より集団化率が上がるよう交換分合推進部会で諸条件を勘案し、交換計画を作成して集団化率の目標に近づくことができた。しかし、事業を実施した地域の中央部に中心市街地があることや、国道や道道などの幹線道路が走っているなど農用地を分断する要素も多かったことから目標まで達することができなかった。

#### 2 目標達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農用地集団化事業	地区面積500ha		上士幌町農業委員会
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
上士幌町農業委員会	平成20年度	平成22年度	平成22年12月3日 (所有権移転登記完了)
事業効果			
交換分合を実施したことにより、ほ場が自宅に近くなり通作距離が短縮され、移動時間を節約でき、また団地数が減ったことにより、農作業のロスが減らすことができる。さらに団地面積を大きくすることにより農業機械を有効的に利用することができる。			

#### 3 総合評価

(コメント)

農地法改正で、所有から貸借へと大きく転換したことにより、交換分合事業で農地を売買するより、貸して持っていたという機運が高まり、交換分合を実施する環境が厳しさを増す中、当事業の集団化率の目標(40%)に達することはできなかったが、農用地の集団化することにより作業効率が向上し、生産性の向上が期待できる。

#### 4 第三者の意見

離農跡地の取得等により農地の分散化が進んでいる状況の中、また、地区内に中心市街地や幹線道路などの分断要素が多い中であって、農地の集団化を図ったことは、評価できるものと思われる。

また、農用地を集団化することにより作業効率向上による生産コストの削減や営農時間及び作業量の軽減が図られ、余暇の増進など魅力ある農業を確立し、地域農業の発展・安定化が期待される。